

人前で演奏 感じる喜び

五万堀区在住。海外出張のため休団した二年のブランクを乗り越え、再びこの夏ステージに立った。学生時代から楽器と共に過ごした楽しい思い出を語る、長谷川元宏さん。



楽団四季「Jolly forest Jazz orchestra」

長谷川 元宏さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.16

みの〜れとの出会いは、オーブンする四年前。納場小学校PTA会長として参加した、「(仮称)美野里町文化センター創設委員会」。広報委員として、現在の「おみたmagazine」の前身になる広報紙を作っていた。みの〜れ誕生に関わり、現在はプレイヤーの一人としてみの〜れに通う、長谷川元宏さん。

緊張感と充実感

福島県湯本出身。海の幸と温泉の湧き出る湯本で育ち、大学進学のため茨城に来た。

茨城で一番最初に感じたことはお風呂の違い。子どもの頃から温泉に入っていたので肌を感じるお湯が違ったという。

大学在学中は福島県出身の仲間と「ふくしまトリオ」を結成。長谷川さんはギターとボーカルを担当。主にフォークを中心に活動していた。また、ベースが好きな長谷川さんは先輩が結成した「ブラッククイン様」に加入。アメリカンフォーク&ロック(おとなしいロックをイメージしてください)・本人談)を中心に活動し、県民文化センターや水戸市民会館のステージに立ち、コンテスト優勝の経験を持つ。

就職してから職場の人たちと「ジャズコンボ」という小さいグループを組んで二、三年活動。ボーカル(主に演歌)、ギター(主にロック)などバラエティーにとんでいた。ダンスパーティーのバックバンドに呼ばれ、タンゴ・ワルツ・ルンバ・ジバ・ソシアルダンスなどレパートリーを増やすのに大変だったが、色々な人と知り合いになれた事が良かったという。

みの〜れ住民楽団「ジャズオーケストラ(以下ジャオリフォレ)」に入ったきっかけは、五万堀地区の喫茶店「ベルテモンターニャ」を経営する大塚さんに誘われて。二五年のブランクがあつたので多少不安はあつたが、持っていたベースが立派なものだったので「目の前に当てないと可哀想かな」という思いも手伝い、思い切って飛び込んだ。

学生時代から人前で演奏することが大好きだったという長谷川さんは、「ステージの始まる前の緊張感と、終わった後の『やった』という感動が『いい』という。区やコミユニティへの出演、ふれあいまつり、国民文化祭、住民ミュージカル「RENDÁ」など、以前より発表の機会が増えており、練習の成果を人前で披露できることに喜びを感じるという。

最近の悩みは「小さな音符が見えにくくなっちゃって、最年長だと実感する」こととか。これからも、「他のメンバーに迷惑をかけないでついていきたい」と控えめに話す長谷川さんに、メールを送りたい。

(藤田佐知子)